

伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターニュース vol.51

第24回伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト上位入選作品



最優秀賞(宮城県知事賞)「光を受けて」
川崎淳一(仙台市太白区)



優秀賞(財団理事長賞)「夏の伊豆沼」 菊地 永



金 賞(栗原市長賞)
「サギたちの朝」 窪田哲夫



金 賞(登米市長賞)
「伊豆沼情景」 鈴木宏子

保全活動

自然再生事業、平成26年度の主な成果

伊豆沼・内沼では、昭和55年の洪水が発生する以前の伊豆沼・内沼を目指すことを目的に、沈水植物、魚類相の復元など自然再生事業に取り組んでいます。2月21日に開催された自然再生協議会で報告した平成26年度の主な成果をご紹介します。

10,000株以上の大規模植栽という初めての試みによって、沈水植物クロモを、柵の中で繁茂させることができました。



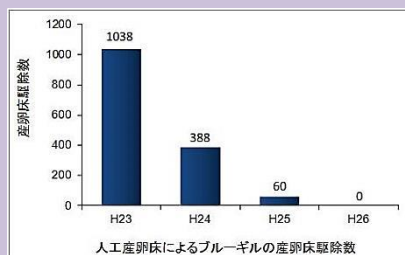
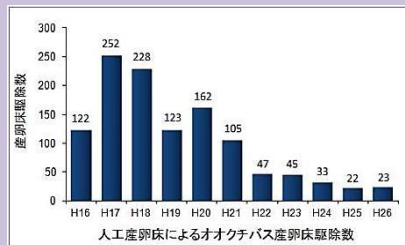
びっしりと生えたクロモ

船を用いたハスの大規模刈り取りの技術開発に成功し、調査の結果、2年連続してハスを刈り取れば、ハスが生えてこないことがわかりました。



ハスの刈り取り前(上)と刈り取り後(下)

オオクチバス、ブルーギルなどの外来魚は、駆除によってどんどん減っています。



オオクチバス(上)とブルーギル(下)が人工産卵床に産卵した数

第9回 伊豆沼・内沼研究集会

伊豆沼・内沼では生物や水質などをテーマとしたさまざまな研究をしています。関係する研究者が一同に集い、情報を共有するために、年1回研究集会を開催しています。2月21日に開催された第9回伊豆沼・内沼研究集会では、約40人の参加があり、10本の発表がありました。

大規模植栽法を用いた伊豆沼・内沼におけるクロモ復元では、水質悪化により減少した沈水植物クロモを復活させる取り組みが紹介されました。ハスの発表が3題あり、枯れたハスが分解されて泥になるまでの過程や、増え続けるハスを抑制する方法などの発表が行われました。加美農業高校の生徒もジュンサイビオトープを作る取り組みについて一生懸命発表していました。



発表の様子(森 晃さん(上)と加美農業高校の浅野 佳那さん・小松 静さん(下))

普及・啓発

第24回 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター1階ホールでは、3/31(火)まで写真展が行われています。応募者全員の作品を展示しておりますので、ぜひ、ご覧ください。



105点のすべての作品を展示しています

イベント・行事

伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン参加者募集!

第56回 伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンを、3月21日(土)春分の日(雨天の場合は22日)に開催します。集合場所は、3ヶ所のサンクチュアリセンターで、受付時間は8:30からです。皆様のご参加お待ちしております。



前回の様子

クリーンキャンペーンは、年1回開催となります

長年のクリーンキャンペーン活動により、沼周辺のゴミの量は大きく減少してきております。そのようなことから、これまで春と秋の年2回開催しておりましたクリーンキャンペーンは、平成27年度から春1回開催となります。引き続き、皆様のご協力をお願いします。次回の開催日は、平成28年3月20日(日)(春分の日)となります。

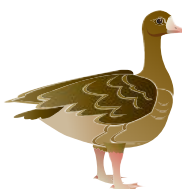
春の保全作業が始まりました

センター周辺の景観を改善するため、センター周辺の環境整備作業を始めました。枯れたヤナギなどを中心に伐採作業を行なっています。



作業の様子

渡り鳥飛来情報(2/20)



ガン類	27,675羽
ハクチョウ類	100羽
カモ類	1,444羽
合計	29,219羽

ガン、ハクチョウの北帰行は、終盤です。

(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
(事務局)
〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2
Tel:0228-33-2216 Fax:0228-33-2217
E-mail: izunuma@circus.ocn.ne.jp
ホームページ: http://izunuma.org/